

(別添 1)

事業評価の結果（共通評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名（施設名） とがくし保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
I 福祉サービスの基本方針と組織	1 理念・基本方針	(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人（保育所）内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。 ■ 2 理念は、法人（保育所）が実施する保育の内容や特性を踏まえた法人（保育所）の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 ■ 3 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 ■ 4 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 ■ 5 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、保護者等への周知が図られている。 ■ 6 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。 ■ 7 理念や基本方針を保護者会等で資料をもとに説明している。 	<p>・長野市の公立保育園及び保育所型認定こども園共通の保育理念があり、共通の基本方針とともに市のホームページに掲載したり当保育園の「運営規程（重要事項説明書）」に明記し、また、「全体的な計画」にも掲げ職員も実践している。基本方針は「安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします」「専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します」「保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします」「家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします」「保育を实践するにあたっては、『全体的な計画』に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します」の5つで、当保育園でも3月末の新年度職員会及び年度当初4月の職員園内研修などで理念・基本方針を周知している。また、事務室、園内掲示板、各保育室に掲げ具体的な行動に繋がっている。更に、市の公立保育園共通の「保育園のしおり」にも理念や基本方針が明記されており、それらを基に新入園児保護者説明会、継続児保護者説明会、保護者総会、保育参加等で写真やスライドを交え保護者にも具体的に説明している。当保育園としての分かりやすい2つの保育目標もあり、4月の園だよりにも保育理念・基本方針を載せ、職員も行動規範としてその実践に努めている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
I	2 経営状況の把握	(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 8 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 ■ 9 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 ■ 10 子どもの数・利用者（子ども・保護者）像等、保育のニーズ、潜在的利用者に関するデータを収集するなど、法人（保育所）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 ■ 11 定期的に保育のコスト分析や保育所利用者の推移、利用率等の分析を行っている。 	<p>・市の公立保育園全体としての方向性が「第二期（令和2年度から令和6年度）長野市こども・子育て支援事業計画」で示されており、公立保育園全体としての推移予測や利用率の分析についても市の保育・幼稚園課が主体となって実施している。当保育園は長野市街地の北西部に位置し、妙高戸隠連山国立公園、戸隠神社などの観光地ということもあり、観光等に携わる自営業の保護者も多く、時間外保育を利用する子どももいる。当園では山間地ならではの「特別利用保育」を利用することができ、また、毎年度6月から2月まで毎週木曜日におひさま広場（園開放）を行い、子育て相談にも応じており、市保育・幼稚園課に一時預かり保育の利用者数も報告している。更に、市の地域発達支援会議に園長が出席したり、地域の保健センター等において保健委員会が開催され主任が参加し情報交換したりし、保育のニーズや潜在的利用者等を把握している。毎年度、市社会福祉審議会児童福祉専門分科会において「長野市こども・子育て支援事業計画」の推進を図るための点検と評価がされており冊子としてまとめられ市ホームページでも閲覧できるようになっている。</p>
			② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 12 経営環境や保育の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 ■ 13 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。 ■ 14 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 ■ 15 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。 	<p>・当保育園では年々、未満児保育の入園希望が増えており、園舎の面積に合わせ、ほふく室1室、幼児室4室として有効に利用し、0・1歳児クラス混合で、子どもの最善の利益を考慮し、異年齢、同年齢それぞれのメリット、デメリットの課題等を職員間で検討し、メリハリをつけた保育形態で対応している。当園としての経費予算の上限枠が「消耗品費等の配当」として年度で割り当てられており、光熱水費や消耗品、設備などについても年度末に全職員により「現状の洗い出し」を行い、当園としての「自己評価」に繋げ、修繕や環境整備面でも市の保育・幼稚園課に要望している。公立保育園全体の組織体制や設備の整備などの経営課題に関しては市の保育・幼稚園課が管轄し、公立保育園の園長会、ブロック園長会、主任会等でも運営状況や課題などが市担当部署から説明され、職員会議でも報告がされている。当園でも経費の効率的な運用に努めており、可能なものは職員が手作りし対応している。職員体制についても市の保育・幼稚園課と相談しながら子どもの増減に応じた代替職員やパート職員を確保するなどの適正配置に努め、また、業務の効率化に向けて職員同士がお互いをフォローし合いきめ細かに対応している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
I	定 3 事業計画の策	(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	<p>16 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にしている。</p> <p>17 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p>18 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p>19 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	<p>・市としての全体のビジョンが「子ども・子育て支援事業計画」及び「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」で明確にされている。「長野市子ども・子育て支援事業計画」については今年度から令和6年度までの第二期5ヶ年計画に入っており、これまでも毎年度、その達成状況の点検と評価が数値的に行われており、「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」も5年毎の見直しが保育・幼稚園課により行われている。当保育園としての2018年度から2020年度までの中期計画もあり、「2017年度認定を受けた『信州やまほいく』を5年サイクルで充実させる」「福祉サービス第三者評価の受審を元に、保育内容の継続を進める」「長野市運動プログラムと共に、戸隠独自のコアキッズ体操の普及を図り、『やまほいく』との連動を図る」「自然を利用した体力の増進を取り入れる」などを掲げ全職員で取り組んでいる。</p>
			② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	<p>20 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。</p> <p>21 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p>22 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p>23 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	<p>・「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」を基に当保育園としての2018年度から2020年度までの中期計画及び単年度の当園としての事業計画が策定されている。事業計画には「今年度の重点課題」として「保育内容の充実」「保護者支援」「安全・安心な保育の実践」「地域の子育て支援」「職員の資質の向上」「労働環境の改善」などの6つの項目が掲げられ、また、「保護者支援」や「危機管理に関する取り組み」、「実習生・職場体験・ボランティアの受け入れ」、「世代間交流事業」、「小学校との連携の計画」、「子育て支援事業」等も具体的に掲げられ、実施に移されている。市としての世代間交流の実施計画書と報告書の様式があり、数値目標や経費、成果などの欄が設けられている。各職員は期初に自ら目標を立て、また、期末には業績評価を実施し、目標の達成状況等を踏まえ、園としての次年度や中期の計画立案に繋げている。</p>
		(2) 事業計画が適切に策定されている。	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	<p>24 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p>25 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p>26 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p>27 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p>28 事業計画が、職員に周知（会議や研修会における説明等）されており、理解を促すための取組を行っている。</p>	<p>・期末に年度の事業計画を振り返り、職員全員で現状の洗い出しを行い、また、職員会での意見を反映し、新たな「事業計画」や「保育計画」として、新体制での初めての職員会議で園長から文書で説明し周知されている。また、業績評価に記載されている組織目標の実施状況についても確認し年度末には達成度を評価し事業計画の見直しを全職員で行っている。更に、市全体の園長会、主任会、保育士部会、給食部会、未満児研修会、障がい児研修会、看護師会等でも意見が集約され市としての計画に反映されるようになってきている。「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」に沿い、当園としての中期計画が策定されており、「2017年度認定を受けた『信州やまほいく』を5年サイクルで充実させる」「福祉サービス第三者評価の受審を元に、保育内容の継続を進める」「長野市運動プログラムと共に、戸隠独自のコアキッズ体操の普及を図り、『やまほいく』との連動を図る」「自然を利用した体力の増進を取り入れる」等を掲げ、職員は園内や市主催の研修に積極的に参加し、事業計画を理解するとともにその具体化のために必要とされる知識やスキルの習得に努めている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
I	3	(2)	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	<p>■ 29 事業計画の主な内容が、保護者等に周知（配布、掲示、説明等）されている。</p> <p>■ 30 事業計画の主な内容を保護者会等で説明している。</p> <p>■ 31 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成する方法によって、保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。</p> <p>■ 32 事業計画については、保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。</p>	<p>・事業計画については入園説明会、継続児説明会、保護者総会などで写真やパワーポイント、「保育園のしおり」等を用いて園長が分かり易く保護者に説明している。毎日、園玄関にクラスごとの活動を記した紙ベースでの報告をボードに掲示し、理解を促している。また、園だよりに事業計画に繋がる保育の場面を文章・イラスト・写真を交え掲載し配布している。今年度はやまほいくの認定と第三者評価受審について園長が保護者に説明している。例年、保護者アンケートが年2回実施されており、その結果を保護者にフィードバックし、運営にも反映している。</p>
	4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	<p>■ 33 組織的にPDCAサイクルにもとづく保育の質の向上に関する取組を実施している。</p> <p>■ 34 保育の内容について組織的に評価（C：Check）を行う体制が整備されている。</p> <p>■ 35 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。</p> <p>■ 36 評価結果を分析・検討する場が、組織として位置づけられ実行されている。</p>	<p>・当保育園としては今回の第三者評価が2回目の受審となる。職員は、市職員としての立場から毎年業績評価を行い、第三者評価の受審に向けた園内研修も計画的に受け、また、保育所第三者評価の評価項目に準じた自己評価を前期と後期、年2回実施し、P（Plan・計画策定）→D（Do・実行）→C（Check・評価）→A（Act・見直し）のサイクルに沿い定期的な取組として職員会議で集計・分析し、課題の洗い出をするともにその解決を図っている。また、第三者評価を定期的に受けることにより、園の強みや改善点についての気づきを得て、更に、保育の質の向上に取り組もうとしており、今回の評価結果も公開される予定となっている。</p>
			② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	<p>■ 37 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。</p> <p>■ 38 職員間で課題の共有化が図られている。</p> <p>■ 39 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。</p> <p>■ 40 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。</p> <p>■ 41 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。</p>	<p>・当保育園では毎年度、業績評価及び保育所第三者評価の共通・内容評価項目に準じた自己評価（年2回）を行っている。その結果を集計・分析し、自己評価の中での気づきや課題などについては職員会議、未満児職員会議、幼児職員会議で検討し、改善に向けて計画的に研修を実施するなど、課題解決に取り組んでいる。また、職員が話し合った改善点については、一人ひとりの保育士が、子どもへの保育内容を基盤に保育を振り返り、自分の保育の良さや課題を捉えて、次の保育に活かしている。更に、当園として、保育士等の自己評価を踏まえ、全職員の共通理解の下、組織としてよりよい保育に向けた改善や充実に取り組み、内容によっては市担当部署にも提出し、公立保育園全体としての改善に向けて計画的に取り組んでいる。今年度の当園の全体的な計画にも「豊かな自然を活かし子どもの発達を援助し、主体性や自己肯定感を育みます」「安全で安心できる生活の場を整え、友達や保育者との関わりの中で、自立や協調性を養います」「家庭や地域との連携を図りながら、共に子どもの成長を支えます」「地域の子育て支援の拠点としての役割を担います」の四つの保育方針が掲げられており、年度の「事業計画」とも連鎖し保育の質の向上に繋がっている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
II 組織の運営管理	1 管理者の責任とリーダーシップ	(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	42 施設長は、自らの保育所の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	・園長は市の基本方針、当保育園の保育方針等を踏まえ、保護者総会、保育参加などで自らの役割と責任について保護者に伝えている。また、新年度当初の職員会で「事業計画」や「運営規程」を職員に配布・説明し、自らの業務の推進についての姿勢等を周知している。市としての「組織図」の様式に沿い、当園の「職員構成と職務内容」や「事務分掌職務分担表」として文書化し、園長自らの職務内容として「労務管理」「保育所運営管理」「事務関係」「渉外関係」等として定め、効率的な運営に向けて職員と協働している。更に、非常時の役割と責任についても危機管理マニュアル、各災害対応フロー、園の運営規程等に基づき明確にしており、園長不在時は園長補佐としての保育主任が代行するようになっている。	
			43 施設長は、自らの役割と責任について、保育所内の広報誌等に掲載し表明している。		・保育所の役割や社会的責任を遂行するために、園長は保育の実施と運営上の根拠となる法令はもちろん、基本的な関連法令（福祉分野に限らず、雇用・労働、防災、環境への配慮に関するもの等）や、保育に関わる倫理等を正しく理解しその専門性等の向上に努めている。市の職員として地方公務員法等の法令等については熟知しており、「公立保育園長の心得」「教育・保育の手引き」「マナーブック」等で法令を遵守するように職員にも指導している。また、労働基準法を厳守しつつ職員の休憩や休日の確保等についても代替職員やパート職員の配置で補い、更に、「長野市の環境方針」や「環境保全率先実行計画」などに沿い良好な生活環境や豊かな自然環境の保全などにも努めている。		
			44 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。				46 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者（取引事業者、行政関係者等）との適正な関係を保持している。
			45 平常時のみならず、有事（災害、事故等）における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。				47 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。
			② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。				a
		(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	a	50 施設長は、保育の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。		51 施設長は、保育の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
				51 施設長は、保育の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	52 施設長は、保育の質の向上について組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。		
				52 施設長は、保育の質の向上について組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	53 施設長は、保育の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。		
				53 施設長は、保育の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	54 施設長は、保育の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。		
				54 施設長は、保育の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。			

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
II	1	(2)	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	<p>■ 55 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。</p> <p>■ 56 施設長は、組織の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。</p> <p>■ 57 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、組織内に同様の意識を形成するための取組を行っている。</p> <p>■ 58 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>	<p>・園長は常に園運営上の課題を把握し、人事、労務、財務等の視点から運営の改善や業務の実効性を高めるために日々検証を行い、職員と共に改善に取り組んでいる。日々の業務が効率良く行えるようにクラス担任、加配保育士、パート保育士などを適所に配置し、また、休憩時間や有給休暇の取得、行事内容の見直しや役割分担を明確にすることで残業時間の削減等にも配慮している。更に、働きやすい環境づくりのために、人事異動調書や面談を通して職員の意向も把握しながら対応している。自ら当保育園の衛生推進者として関わり、安全推進担当職員とともに市として行われるストレスチェック結果を把握し、職員の心身の安定も図っている。職員から主査、主査から主任、主任から園長へと意見や要望を上げる流れも円滑に機能しており、職員間の連絡、働き方改革についても取り組み、園運営の改善や業務の実効性を高めるために全職員で取り組んでいる。市公立保育園全体として保育士の業務負担軽減を図るため、保育に関する計画・記録や保護者との連絡等の業務のICT化を行うために必要なシステムの導入が令和3年度前半を目途に進められている。</p>
	2 福祉人材の確保・育成	(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	<p>■ 59 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p>■ 60 保育の提供に関わる専門職の配置、活用等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p>■ 61 計画にもとづいた人材の確保や育成が実施されている。</p> <p>■ 62 法人（保育所）として、効果的な福祉人材確保（採用活動等）を実施している。</p>	<p>・市としての配置基準に沿い市担当部署が保育士、調理員等の配置については主管し、市公立保育園全体で正規職員、会計年度任用職員の確保が計画的に行われている。当保育園独自に代替保育士、代替調理員、休憩パート職員なども確保している。人材育成面では市の「保育士研修概要」に基づき、新規採用保育士についてはステップアップノートを使用しアドバイザーと指導者がつき、2年目、5年目、10年目の職員については市保育職としてのスキルアップ研修が組まれている。当保育園を含めた8保育園を1ブロックとし、看護師が配置されており、子どもたちの幅広いケア、保育士や調理員などの職員の健康管理、衛生指導、さらには子どもが暮らす家庭の健康にも配慮し、職員への感染症研修・AED研修なども行ない、保育園全体の健康と衛生を保っている。公立保育園全体の保育士確保対策として保育士を目指している求職中の方を対象に現場で働く保育士が直接職場の様子や仕事の内容を説明する相談会の開催、ポスター掲示、新聞による募集、各園での募集案内の配布、動画配信等が行われている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
II	2	(1)	② 総合的な人事管理が行われている。	a	<p>■ 63 法人（保育所）の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。</p> <p>■ 64 人事基準（採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準）が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p>■ 65 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p>■ 66 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p>■ 67 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p> <p>■ 68 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。</p>	<p>・保育士としてどうあるべきか、期待する職員像を市の「保育基本方針」「教育・保育の手引き」などに掲げ、明確にしている。また、保育マニュアル(未満児・幼児)にも「保育士の望ましい態度」が明記されている。更に、市の「保育士研修概要」の「保育士の資質に関する指標」を基に職能ごとの期待される職員像に向かい、将来を描く仕組みができています。人事基準については新規職員採用時研修で周知されており、職務に関する成果や貢献度等については能力評価や業績評価が用いられている。昨年度から会計年度任用職員にも業績評価が適用され、その処遇に能力や経験等が加味されるようになり、また、保育の専門職としてのキャリアアップ研修も導入されている。職場環境配慮義務や使用者責任の観点から市の保育・幼稚園課担当係長による各園の労務巡回指導も年1回実施され労働環境の実態も把握されており、職員の処遇改善にも反映されている。職員は人事異動調書により園長あるいは保育主任と面談し、昇進・昇格等の希望も聞き入れられるようになっており、市として保育職の働く環境の整備に総合的に取り組んでいる。</p>
		(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	<p>■ 69 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。</p> <p>■ 70 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。</p> <p>■ 71 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。</p> <p>■ 72 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を組織内に設置するなど、職員が相談しやすいような組織内の工夫をしている。</p> <p>■ 73 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。</p> <p>■ 74 ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。</p> <p>■ 75 改善策については、福祉人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。</p> <p>■ 76 福祉人材の確保、定着の観点から、組織の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。</p>	<p>・園長が労務管理の責任者で安全衛生推進者を兼務しており、勤務表の管理や時間外勤務等命令簿兼勤務実績確認簿は園長と主任がダブルチェックしている。昨年度からタイムレコーダーも導入され客観的な数値で出勤が管理できるようになっている。市として職員の健康と安全の確保のために安全衛生推進委員会を各園に設けており保育主査が委員となり安全衛生年間計画を立て、ストレスチェックや健康診断、腰痛防止策、労働安全等について安全衛生推進者と共に対処し、毎年度、当園としての職場スローガンも掲げ委員会実施記録も作成している。公立保育園として年1回職員のストレスチェックを行い、市役所内の医務保健室の指導を受けることができる。また、労務管理に関わる相談については保育・幼稚園課のヘルプデスクに相談することができる。「人事異動調書」の確認も兼ね職員と園長あるいは保育主任との面談を年1回行い、また、必要なときに随時、園長や主任と相談を行うことができる。福利厚生については市の福利厚生に準じており、長野県市町村職員共済組合や市職員互助会への加入、人間ドック、健康診断の受診などが実施されている。園の事業計画に「働き方改善の取り組み」として掲げ、保育者同士の多様性を認め合いつつ仲間としてお互いを受け止め、時間外労働の削減、休暇の計画的な取得などに取り組んでおり、仕事と生活の両立という面からも育児休暇や介護休暇、療養休暇など、状況に応じて休暇が取得できるようになっている。福祉人材の確保、定着の観点から、休憩パート保育士の確保、育休取得時の代替保育士の配置等も行われている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
II	2	(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="835 212 1552 260">■ 77 組織として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。 <li data-bbox="835 308 1552 387">■ 78 個別面接を行う等保育所の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。 <li data-bbox="835 411 1552 467">■ 79 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。 <li data-bbox="835 507 1552 563">■ 80 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。 <li data-bbox="835 611 1552 667">■ 81 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末（期末）面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。 	<p>・質の高い保育を展開するため、一人ひとりの職員についての資質向上及び職員全体の専門性の向上を当保育園としても絶えず図っている。市としての「保育園職員研修要領」があり、各職員の経験年数や課題に応じた研修計画に沿って計画的に研修をしている。また、キャリアステージの指標があり期待する職員像と連動している。更に、市の「保育基本方針」や「教育・保育の手引き」、「保育マニュアル(未満児・幼児)」に保育園の職員としての期待される姿や専門性について明記しており、職員は機会あるごとに確認をしている。また、市職員としての業績評価表(目標管理シート)を期初に作成し、一人ひとりの目標を記入後それに向けて実践し、年度末の2月に評価を行い次年度目標の策定に繋げている。業績評価表の作成に当っては目標水準、項目、目標期限などが明確に記載されるようになっている。主任は第一次評価者として期の途中で面談などをし、職員の目標に対する進捗状況を確認し、職員一人ひとりにアドバイスしつつ園長とともにチームとしての保育についても見つけ直し、全体の質の向上に繋げている。</p>
			② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="835 722 1552 770">■ 82 保育所が目指す保育を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。 <li data-bbox="835 826 1552 898">■ 83 現在実施している保育の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、保育所が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。 <li data-bbox="835 938 1552 986">■ 84 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。 <li data-bbox="835 1042 1552 1074">■ 85 定期的に計画の評価と見直しを行っている。 <li data-bbox="835 1153 1552 1201">■ 86 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。 	<p>・職員それぞれに必要な知識や技術を修得し、より高度な専門性を得て、専門職としてのキャリアを形成していくことができるように保育園全体で取り組んでいる。市の「保育基本方針」や「教育・保育の手引き」の中に求められる保育士の姿や専門性についての項目があり、また、「保育マニュアル(未満児・幼児)」からも読み取ることができる。市としての「保育士研修概要」や「園内研修計画」があり、計画的に課長補佐会、園長会、主任会、保育士部会、特別支援教育保育研修会、未満児研修会、給食部会等での研修を開催しており、その報告から必要性に合わせ園内研修を行い、職員に周知している。別に、市職員としての研修体系があり、新任職員研修、2年目・5年目・10年目職員研修、会計年度任用職員1年目・5年目職員研修、主査・新任主任・新任園長・新任課長補佐研修などが実施され、研修会後のアンケートなどを基に補佐会や園長会などの部会で評価・見直しが行われている。今年度は新型コロナウイルスの影響を受けオンラインでの研修に切り替えたものもある。長野市の庁内グループウェアに掲示板があり、市の実施する研修や職員個々に必要とする外部研修については各職員が直接検索し、申込みすることができる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
II	2	(3)	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	<p>87 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。</p> <p>88 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。</p> <p>89 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。</p> <p>90 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を奨励している。</p> <p>91 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。</p>	<p>・保育園の全体的な計画作成や各職員の研修の必要性等を踏まえて、体系的・計画的な研修機会を確保するとともに、職員の勤務体制の工夫等により、職員が計画的に研修等に参加し、その専門性の向上が図られるよう努めている。職員からの自己申告カードや人事異動調書(職員の意向調査)などで専門資格の取得状況について把握がされている。職種、経験、習熟度などに合わせた市公立保育園としての研修体系があり、一般研修、派遣研修、職場外研修に区分され、新人職員研修はもちろん、2年目・5年目・10年目研修、主査・主任・園長研修、未満児・特別支援教育保育研修会、給食部会・看護師会研修等が実施されている。また、別途、市職員としての研修についての案内が市担当部署より来るため交代で参加している。更に、担当部署からの外部研修に関する情報提供に加え、各自情報を収集し自己啓発の意味も含め「講演会」等に自主的に参加している。市の実施する研修や外部研修については職員が直接、市の庁内グループウェアで検索し申込みことができ、職員は自ら選択し「私の研修計画」を作成後可能な限り参加している。例年行われている他園への訪問保育、公開保育などには新型コロナウイルスの感染レベルに応じて時機を見て参加し、参加した職員からの報告も職員会等で行われている。今年度、公私立保育園・幼稚園などの研修、また、県保育研究大会、子育て塾などは感染対策上中止となっている。</p>
		(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	<p>92 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。</p> <p>93 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。</p> <p>94 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。</p> <p>95 指導者に対する研修を実施している。</p> <p>96 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。</p>	<p>・「実習生の受け入れ」が当保育園としての事業計画に掲げられ、主任が担当している。公立保育園としての「実習生受け入れマニュアル」があり、また、実習生受け入れプログラムに沿って実習生の指導を行い、保育士を目指す若者の育成と指導につく保育士自らの保育を見直す機会として積極的に取り組んでいる。実習生に事前のオリエンテーションを行い、実習のねらいや希望等を本人から聞く機会も設け、養成校から示された実習のねらいに沿ったプログラムを基に進めている。また、実習の最後には振り返りをし、実習生の疑問点等が解決できるように配慮している。市の主任会で実習指導者についての研修や講演会を開き、園内でも伝達研修をし実習生の受け入れに備えている。また、新型コロナウイルス感染対策を十分行い、今年度も中学生の職場体験を受入れており、中学校の先生も来園し、小まめな連携を取っている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
II	3 運営の透明性の確保	(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 97 ホームページ等の活用により、法人、保育所の理念や基本方針、保育の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。 ■ 98 保育所における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。 ■ 99 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。 ■ 100 法人（保育所）の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人（保育所）の存在意義や役割を明確にするように努めている。 ■ 101 地域へ向けて、理念や基本方針、事業所で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。 	<p>・市としての理念、基本方針、事業計画が「保育園のしおり」や「長野市子ども子育て支援事業計画」に明記されている。また、市のホームページ等に、「園紹介」として公私立保育園全園の情報を公開している。公立保育園全体としての予算や決算等の概要が市のホームページや広報紙等に掲載されることもある。基本的に年2回、保護者アンケートを取り、第三者評価についても今年度第2回目を受審し、県のホームページ等を通じて公表される予定になっている。一時預かり保育やおひさま広場に来園する未就園児や保護者に向けて子育て相談に応じたり、保育・子育て等に関わるイベントなども実施している。更に、園の玄関に印刷物を置いたり、お知らせボードに掲示し、おひさま広場等への参加を広く促している。今年度は自粛となり地域の会議数は減少しているが、区長、児童民生委員などの地域関係者には、地域会議（とがくしっこ応援団）等において園便りを配布し、園長が説明することで、保育園としての地域の役割を明確にしている。</p>
			② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	<ul style="list-style-type: none"> ■ 102 保育所における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。 ■ 103 保育所における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。 ■ 104 保育所における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。 ■ 105 保育所における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。 □ 106 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。 □ 107 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。 	<p>・市の事務手続きや職務事務分担表により事務、経理、取引等に関するルールが職員に周知されており、それぞれが自分の役割を理解し遂行している。また、運営の透明性を図るため公立保育園として市の内部監査を2年に1回受け、また、県の監査も2年に1回受け、毎年度、県に行政事務調査票を提出し適正に運営している。市として包括外部監査が取り入れられており、包括外部監査契約を締結した外部監査人が自ら特定の監査テーマを定めて財務監査を実施するものとしており、市保育園全体として該当する年度もある。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
II	4 地域との交流、地域貢献	(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	<p>■ 108 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p>■ 109 活用できる社会資源や地域の情報を収集し、掲示板の利用等で保護者に提供している。</p> <p>■ 110 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p>■ 111 保育所や子どもへの理解を得るために、地域の人々と子どもとの交流の機会を定期的に設けるなどの取組を行っている。</p> <p>■ 112 個々の子ども・保護者のニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p>	<p>・子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮し、施設等の地域の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実が図られるよう配慮している。例年、地域の子どもフェスティバル、地域の運動会、交番・消防の情報、とがくしっこ応援団の活動等のチラシを配布したりポスターなどを掲示している。園を中心とした公共機関や名所旧跡などをイラストで描いたお散歩マップがあり、散歩中に挨拶をするなど地域の人々と関わるができるようにしている。今年度は新型コロナウイルス禍のため自粛するものもあったが、例年であればお年寄りとの世代間交流(運動会、クリスマス会、しめ縄作り、老人福祉施設・デイサービスの利用者との交流)、おひさま広場(園開放、育児講座、育児相談)、小学生・中学生、高校生との交流(職場体験、ボランティア受け入れ)、実習生の受け入れなどが実施されており、戸隠ならではの環境レンジャーや博物館の研究員による「動植物の生態系観察」やとがくしっこ応援団の協力活動の一環としての「ファーブル先生による昆虫教室」、戸隠地質化石博物館職員によるテンヤクマなどの地域の動物や世界の動物の紹介なども行われている。同じく新型コロナウイルス禍のため保護者や地域の人を招かず自粛となった夏祭りであるが、7月に子どもと職員みで行った。今年は、お招きできなかった地区の獅子舞を子ども達が獅子を自分たちで制作し披露した。</p>
			② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	<p>■ 113 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明文化している。</p> <p>■ 114 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。</p> <p>■ 115 ボランティア受け入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。</p> <p>■ 116 ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。</p> <p>■ 117 学校教育への協力を行っている。</p>	<p>・ボランティア等の受け入れについては「長野市公立保育園ボランティア実施要領(受け入れマニュアル)」があり基本姿勢が明文化されている。その中の「参加者へお願い」に守秘義務等の注意事項を明記し、事前にオリエンテーションを行い、理解を得るようにしている。「長野市子ども・子育て支援事業計画」に「乳幼児とふれあう機会の提供」として地域の学校教育等への協力についての姿勢が明記されており、中学生や高校生の職業体験の受け入れや中学の家庭科の授業への協力なども行っている。今年度は新型コロナウイルス感染の影響を回避するため自粛している行事などもあるが、戸隠地域全体として域内の子どもを育てるための「戸隠コミュニティスクール構想」があり、その支援組織としての「とがくしっこ応援団」もあり「学習・健康」、「歴史・文化」、「環境」、「農林」、「商工」、その他関係団体等のスペシャリストにより「保・小・中・高」の子どもたちとの交流が図られている。今年度も、戸隠神社の禰宜による年神様の話、園近くのお寺の住職によるコマ回し指導と涅槃会への招待などが行われている。また、例年であれば同じお寺の茶室での茶道体験などが行われているが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため見合わせとなっている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
II	4	(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 118 当該地域の関係機関・団体について、個々の子ども・保護者の状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。 ■ 119 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。 ■ 120 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。 ■ 121 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。 ■ 122 地域に適当な関係機関・団体がいない場合には、子ども・保護者のアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。 ■ 123 家庭での虐待等権利侵害が疑われる子どもへの対応について、要保護児童対策地域協議会への参画、児童相談所など関係機関との連携が図られている。 	<p>・子育てをしている家庭が抱えるさまざまなニーズを充足するために、何らかの支援や援助を提供することができる機関・施設・組織等を挙げた保育園関係機関一覧(エコマップ)が作成されており、地域発達支援会議、園長会、主任会、園医とのカンファレンス、幼保小連絡会等が定期的に行われ、園長または主任が出席し課題解決や就学に向けて協働している。また、検診の後、園医とのカンファレンスも行い、子ども達の健康上の課題にも取り組んでいる。更に、児童相談所、市要保護児童対策地域協議会への参画から必要な児童を受け入れる可能性もあり、子育て支援課、子ども相談室、保健センターなどと連携を取っている。特に、戸隠という地域性から、市戸隠保健センターの保健師、小学校の保健師などと連携し、配慮が必要な子どもについて継続的な支援を行っている。</p>
		(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 124 保育所のスペースを活用して地域の保護者や子ども等との交流を意図した取組を行っている。 ■ 125 保育所の専門性や特性を活かし、地域の保護者や子ども等の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。 ■ 126 保育所の専門性や特性を活かした相談支援事業、子育て支援サークルへの支援等、地域ニーズに応じ地域の保護者や子ども等が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。 ■ 127 災害時の地域における役割等について確認がなされている。 ■ 128 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。 	<p>・当保育園では毎年度6月～2月の毎週木曜日(今年度は、コロナ感染症のため、月1回開催)におひさま広場を開き未就園児とその保護者の交流の場として園内外で遊んだり、子育て相談に応じたり講演会や講習もを行い、父と子のふれあい事業も開催し、未就園児と保護者が園内外で遊んだり、幼児との交流をしている(今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため交流は見合わせた)また、一時預かり保育を行い、保護者の就労等により断続的に保育が必要な場合、疾病、災害、事故、出産、介護、冠婚葬祭等社会的にやむを得ない場合、育児に伴う心理的又は肉体的負担解消、リフレッシュ、学校行事の際などに利用できるようにしている。更に、特別利用保育も行い、小学校に入学する前に集団保育を経験させたいが、身近な地域に利用可能な幼稚園等がなく、保育所を利用する理由(月64時間以上の就労、就学等)もないといった家庭のために、例外的に地域の保育所を利用できるようにしている。新型コロナウイルス禍、今年度自粛することもあったが、保健師による講演会、親子ふれあい事業等の開催もし、子育て相談に乗ったりしている。非常時にはすぐ近くに小学校があり、また、中学校や市役所支所、市戸隠農村環境改善センター、市戸隠保健センター等との連携がとれるようになっている。災害時の避難場所はすぐ近くの小学校で、例年であれば9月の防災の日前後には防災訓練も毎年合同で実施されているが、今年度は新型コロナウイルス禍ということもあり園長が地区関係者などと非常時の手順の打ち合わせ等を実施している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅱ	4	(3)	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 129 保育所の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。 ■ 130 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。 ■ 131 地域住民に対する相談事業を実施するなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。 ■ 132 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。 ■ 133 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。 ■ 134 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。 	<p>・地域社会との積極的な交流や保育に関する情報の発信など、地域と密接な連携を図りながら、地域の子どもの生活がより充実したものとなるよう取り組んでいる。おひさま広場で未就園児とその保護者と交流したり、園として一時預かり保育や特別利用保育を実施し、今年度は新型コロナウイルス禍ということもあり自粛ぎみとなっているが、例年は入園式や運動会、卒園式などの行事に区の役員、民生児童委員や主任児童委員などを招待して園の実情を知っていただいている。また、園長が幼・保・小連絡会議や住民自治協議会、「とがくしっこ応援団」などの地域の会議に出席し子育てのニーズを把握し対応している。また、主任が地域の保健センターに出向き、地域の保健委員会で地域の関係者と情報共有したり、園のおひさま広場で子育て相談に乗ったりし、その保健センター、地域発達支援会議等での情報から福祉ニーズの把握もしている。</p>
Ⅲ 適切な福祉サービスの実施	1 利用者本位の福祉サービス	(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 135 理念や基本方針に、子どもを尊重した保育の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 ■ 136 子どもを尊重した保育の提供に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 ■ 137 子どもを尊重した保育に関する基本姿勢が、保育の標準的な実施方法等に反映されている。 ■ 138 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、組織で勉強会・研修を実施している。 ■ 139 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。 ■ 140 子どもが互いを尊重する心を育てるための具体的な取組を行っている。 ■ 141 性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮している。 ■ 142 子どもの人権、文化の違い、互いに尊重する心について、その方針等を保護者に示すとともに、保護者も理解を図る取組を行っている。 	<p>・公立保育園としての共通の理念や基本方針に子どもを尊重した保育の実施について明記し、それに沿った保育を実践するために「保育士倫理綱領」「教育・保育の手引き」「各種マニュアル」等を基に、今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、ビデオ映像を用いた研修を行う等、意識を高め、積極的に取り組んでいる。また、職員は年に2回実施される自己評価で子どもを尊重した保育について現状の把握と評価を行っている。保育所保育指針の各年齢に合わせた「人間関係」の内容を月間指導計画に反映し、日々の保育実践の中で、子ども達が友達のいいところを見つけて認めることができるよう言葉がけをしたり、様々な保育場面を客観的に捉え常に子供たちと話し合いながら互いを尊重する心を育てている。また、職員自らが子どもを否定するような言葉を使わないようにしたり、子どもに対して色や服装、役割、遊び方など、性差での先入観による固定的な対応をしないようにもしている。入園説明会や入園のしおり、4月の園だよりでは「子どもの人権、文化の違い、互いを尊重する心」について、保護者にその方針を発信し、理解につなげるようにしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅲ	1	(1)	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 143 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。 ■ 144 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。 ■ 145 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、利用者のプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。 ■ 146 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。 ■ 147 子ども・保護者にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。 ■ 148 規程・マニュアル等にもとづいた保育が実施されている。 ■ 149 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。 	<p>・子どものプライバシー保護について、「個人情報保護マニュアル」「人権に関するマニュアル」「虐待に関するマニュアル」「教育・保育の手引き」等に位置付け、これらのマニュアルを基に研修を行い、職員の理解を深め子どものプライバシー保護に配慮した保育が実践できるよう取り組んでいる。特にプライバシーの保護を必要とする「排泄」「身体測定」等の場面では「手作りパーテーション」を準備したり、カーテン、シートを張る等、羞恥心に配慮した対応をしている。夏季のプールでは外部からの視界を遮るため、よしずやブルーシートを使い、シャワー時にも子どものプライバシーの保護をしている。また、日ごろ使用するトイレは安全面に配慮され、年齢に応じてプライバシーが守られる設えとなっている。保護者に対しては虐待に関するポスターを掲示したり、入園説明会資料や「個人情報承諾書」等で周知し、特に、行事の時に撮影した映像のインターネット・SNS等への掲載については注意を促している。万が一不適切な事案が発生した場合には、「長野市個人情報等の適正な管理の為に措置に関する指針」に基づいて対応することになっている。</p>
		(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 150 理念や基本方針、保育の内容や保育所の特性等を紹介した資料を、公共施設等の多くの人が入手できる場所に置いている。 ■ 151 保育所を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。 ■ 152 保育所の利用希望者については、個別に丁寧な説明を実施している。 ■ 153 見学等の希望に対応している。 ■ 154 利用希望者に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。 	<p>・「保育園・認定こども園のしおり」「利用のご案内」「子育てガイドブック」等、市内の幼稚園、認定こども園、保育園の紹介が冊子になっており、市役所や支所、保健センター、保育所等の多くの人が集まる場所に置き入手できるようにしている。園のホームページには、園の概要、保育の目標、保育内容、行事内容等が分かりやすく構成され、イラストも使って、誰にでも分かる内容になっている。利用希望者には所定の資料を用いて丁寧に説明している。また、例年であれば、見学希望については随時受け入れ、保護者が園における保育の意図を理解できるように説明している。ホームページ、保育園のしおり、入園説明会の資料、園紹介等、利用希望者に対する情報提供資料は保護者などの意見を集約し、園長会で見直しをしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
Ⅲ	1	(2)	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	■ 155	保育の開始及び保育内容の変更時の説明と同意にあたっては、保護者等の意向に配慮している。	<p>・「利用のご案内」「保育園・認定こども園のしおり」、入園説明会資料、運営規程等を用いて説明を行い、保育開始時や変更時には個別に保護者の意向を聞きながら、新規入所の申請書や継続の現況届け及び重要事項チェックシートに署名押印をいただいている。使用している資料はイラストや写真を用いた分かりやすい内容で、持ち物等は実物を示すことで保護者が理解しやすいように工夫をしている。配慮が必要な保護者には障害者差別解消法に伴う職員対応要領に基づき対応している。また、アレルギー等、特に配慮が必要な子どもを持つ保護者には、入所前面談を行い必要な書類を整えて説明し必要に応じて関係機関と連携を取りながら理解が得られるように配慮している。</p>
			■ 156		保育の開始・変更時には、保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。		
		■ 157	説明にあたっては、保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。				
■ 158	保育の開始・変更時には、保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。						
■ 159	特に配慮が必要な保護者への説明についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。						
■ 160	保育所等の変更にあたり、保育の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	a	■ 161	保育所の利用が終了した後も、保育所として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<p>・保育所を変更する場合、保護者の同意を得て「保育所保育要録」等で情報提供を行い保育の継続性に配慮し対応している。保育所変更後や卒園後の相談窓口（園長）は園日よりや保育参加の時などにその都度説明を行っており、特に、保育所利用が終了した後も子育てについての相談を受けることを3月の園だよりに掲載している。</p>		
■ 162	保育所の利用が終了した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。						
■ 163	日々の保育のなかで、子どもの満足を把握するように努めている。						
(3) 利用者満足の向上に努めている。	① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	■ 164	保護者に対し、利用者満足に関する調査が定期的に行われている。	<p>・日々の保育の中の、子どもの言葉、表情や仕草等から満足度を把握している。子どもたちの「これやりたい」「できた」「またやりたい」との声を大切に、子どもたちが主体となって実現させた時の子ども達の表情や言葉、「コツ」をつかみ何度もやっている姿を見て満足していると感じ、子どもから表出された意見や思いも受け止め、安定した生活を送ることができるよう翌日からの保育に反映させるようにしている。また、例年、「保護者アンケート」を年2回実施し、個別懇談会は担任が行い、保護者総会には園長と主任が出席し、意見や要望を集約している。今年度は新型コロナウイルス禍のため保護者総会や保育参加を中止せざるを得なくなっている。随時開催の保護者役員会には園長と主任が出席している。また、保護者アンケートで出された意見・要望については職員会で集計し結果を分析・検討し、「保護者アンケート集計結果」に改善策を載せ、フィードバックするようにし、それに基づいて支援内容の反省・改善へと繋げている。今年度は新型コロナウイルスの影響で行事が少なく意見集約の機会も少なくなっていることから、日々の保育の様子を録画した映像（ムービー、スライド）を使って保護者に見ていただいている。</p>		
			■ 165	保護者への個別の相談面接や聴取、保護者懇談会が、利用者満足を把握する目的で定期的に行われている。			
			■ 166	職員等が、利用者満足を把握する目的で、保護者会等に出席している。			
			■ 167	利用者満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、検討会議の設置等が行われている。			
			■ 168	分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。			

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅲ	1	(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 169 苦情解決の体制（苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置）が整備されている。 ■ 170 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を保護者等に配布し説明している。 ■ 171 苦情記入カードの配布やアンケート（匿名）を実施するなど、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。 ■ 172 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。 ■ 173 苦情内容に関する検討内容や対応策については、保護者等に必ずフィードバックしている。 ■ 174 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た保護者等に配慮したうえで、公表している。 ■ 175 苦情相談内容にもとづき、保育の質の向上に関わる取組が行われている。 	<p>・公立保育園として、苦情とは保護者等からの問題提起であり、個別の問題として対応するだけでなく、それを通じて、保育の内容を継続的に見直し、改善し、保育の質の向上を図っていくための材料として捉え、苦情への総合的な対応を通じて、社会的責任を果たしていくという姿勢を保っている。園の玄関には、苦情解決の体制（責任者、受付担当者、第三者委員の設置）が明記されたポスターが掲示されている。苦情解決の体制については責任者が園長、受付担当者は主任、中立、公正な第三者の関与を組み入れるために第三者委員を民生児童委員が務め、職員は「意見（要望）への対応マニュアル」に沿って対処し、また、入園前の契約説明等で重要事項説明書等を使用し「苦情解決の仕組み」について保護者への説明を行っている。意見箱の設置や匿名アンケートの実施等で保護者が苦情を申し出しやすい工夫もしている。表出された意見や苦情相談内容を用いて園内研修を行い、原因、背景、以後の対応策について職員で話し合い、意見をまとめ保育の質の向上につなげている。結果については、申し出た保護者に配慮をした上で必要に応じて掲示やお便りなどで公表をしている。</p>
			② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 176 保護者が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。 ■ 177 保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。 ■ 178 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。 	<p>・日頃から保護者との信頼関係の構築に心掛け、保護者が話しやすいような声掛けや雰囲気作りを図っている。事務所から正門の出入りが窓越しに見えることから園長、主任は登降園時等に事務室前に出て、積極的に保護者とコミュニケーションを取っている。また、「苦情解決の仕組み」を掲示し、意見箱も設置してあり、全家庭に配布している「入園説明会資料」や「4月の園だより」等でいつでも相談ができることを周知している。相談のある保護者向けに事務室などを空け相談スペースを確保する等、プライバシーにも配慮し、保護者との信頼関係を築きながら、子どもの成長や発達の喜びを共に味わえるようにしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
Ⅲ	1	(4)	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	<p>■ 179 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。</p> <p>■ 180 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。</p> <p>■ 181 職員は、日々の保育の提供において、保護者が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。</p> <p>■ 182 意見箱の設置、アンケートの実施等、保護者の意見を積極的に把握する取組を行っている。</p> <p>■ 183 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。</p> <p>■ 184 意見等にもとづき、保育の質の向上に関わる取組が行われている。</p>	<p>・日頃より保育の意図や保育園の取組について説明したり、子どもの様子を丁寧に伝えたりしながら、子どもについて保護者と共に考え、対話を重ねていくことを大切にしている。「意見（要望）対応マニュアル」があり定期的な見直しが行われている。意見箱の設置や保護者アンケート（年2回）などの間接的な手法で意見を募り、日頃から積極的に関わることで直接意見などをいただけるよう保護者の顔が見えると駆け寄り、相談しやすく意見を述べやすいよう配慮している。相談内容や意見については所定の用紙に記録し関係者に報告をし職員間でも改善に向けて話し合い、解決に時間がかかるときは保護者に事情を説明し、時間がかかる旨の理解を得ている。保護者からの相談、意見を職員会議で取り上げ、意見を出し合い、解決策を絞り込み回答を保護者に報告している。また、常に子どもの最善の利益を考慮し保育の中に反映できるようにし、それぞれの保護者や家庭の状況を考慮し、職員間で連携を図りながら保育に当たっている。</p>
		(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	<p>■ 185 リスクマネジメントに関する責任者の明確化（リスクマネージャーの選任・配置）、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。</p> <p>■ 186 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順（マニュアル）等を明確にし、職員に周知している。</p> <p>■ 187 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。</p> <p>■ 188 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。</p> <p>■ 189 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。</p> <p>■ 190 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。</p>	<p>・公立保育園全体としてリスクマネジメント委員会を設置し、リスクマネージャーは園長が選任されている。リスクマネジメント委員会は定期的に行われ、発生した「事故、ヒヤリハット、ケガの報告」を基に共有し、第三者の視点もプラスして発生要因や原因等を分析して再発防止に努めている。事故発生時の対応と安全確保については「危機管理マニュアル」「怪我対応マニュアル」で明確にされている。「危機管理マニュアル」については読み合わせを行い職員に周知している。遊具点検は毎朝実施し、園舎内外の点検も月に1回実施しており、死角になる部分の窓や入り口の鍵を常に施錠し安全確保をしている。また、子ども達が歩く「お散歩コース」は、季節の変わり目等には必ず職員が下見に行き、安全を確認した上で散歩に出かけている。更に、安全対策を強化するため「散歩、危険箇所把握マップ」を作成することで危険箇所を可視化し、職員全体でその箇所を確認している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅲ	1	(5)	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 191 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。 ■ 192 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。 ■ 193 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。 ■ 194 感染症の予防策が適切に講じられている。 ■ 195 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。 ■ 196 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。 ■ 197 保護者への情報提供が適切になされている。 	<p>・感染症対策の責任者は園長で、責任、役割等が「公立保育園保健マニュアル」で明確にされている。感染症の基礎知識、予防方法、発生時の対応体制等についても「公立保育園保健マニュアル」を活用し定期的に職員研修を実施し、職員への周知徹底を図っている。各家庭の協力の基、「健康観察カード」で子どもの全身の状態を家庭と園の双方で共有し、トイレ後、食事やおやつの前、外出後には、自発的に手洗い場に立ち、手洗い、うがいをしている子どもたちの姿があり、習慣化されていることが窺えた。感染症流行期には、ペーパータオルの使用、マスクの着用で感染予防に努めている。新型コロナウイルス感染予防対策として上記に加えて、食事やおやつ時にはクリアケースを使用したパーテーションを使って「飛沫感染」の予防に努めている。共有物（テーブル、椅子、おもちゃ）やドアノブ等は定期的に消毒し「接触感染」についての予防対策も講じている。保護者には感染症の発生状況を掲示板や保健だより等を使って小まめにお知らせし保護者にも協力をいただきながら蔓延防止に努めている。「公立保育園保健マニュアル」は保健師、看護師により2年毎に見直しと更新を行い整備している。</p>
			③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 198 災害時の対応体制が決められている。 ■ 199 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、保育を継続するために必要な対策を講じている。 ■ 200 子ども、保護者及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。 ■ 201 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。 ■ 202 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。 	<p>・災害時における子どもの安全確保のため公立保育園の「危機管理マニュアル」や当保育園の「消防計画」に災害時の体制が定められている。毎月行われている訓練は、ハザードマップの情報や予測できる災害に備えて、消防訓練とともに年間計画を立て、園では毎月想定を変えた不審者訓練、交通安全教室、避難誘導、消火訓練、災害時引渡し訓練、小学校との合同訓練などを実施し、災害時や非常時に備え繰り返し行っている。また、緊急時に備え、緊急連絡網も整備されており、職員は一年に1回程、「非常時参集メール」により訓練を行っている。クラス毎に、非常持ち出し袋が備え付けられており、名簿や水、乾パン、飴等が準備されている。さらに、園内には備蓄品（飲料水、ライスクッキー・乾パン・飴等の食品やガスコンロ、救急セット、おんぶ紐等）が用意されており、一覧表を作成し、賞味期限や必要品目を確認している。支所、学校、駐在所、消防署他、地域の関係機関とは常に連携をとることができ、園の大きな強みとなっている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅲ	2 福祉サービスの質の確保	(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 203 標準的な実施方法が適切に文書化されている。 ■ 204 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。 ■ 205 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。 ■ 206 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。 ■ 207 標準的な実施方法により、保育実践が画一的なものとなっていない。 	<p>・保育の標準的な実施方法は公立保育園共通の「幼児保育マニュアル」「未満児保育マニュアル」として文書化されており、子どもの尊厳、プライバシーの保護、権利擁護に関わる姿勢が打ち出されている。職員会議等の時間を使って読み合わせ研修を実施し、また、職員の雇用形態に関わらず、一定水準の保育が実践されるよう「教育・保育の手引き」を全職員に配布し、研修時に活用している。また、一人ひとりの発達状況に応じた保育が実施されているか否を確認する仕組みがあり、園長と主任は担任が立案した週日案や月案の記載内容から読み取り、更に、園長・主任が日々の保育を見聞きする中で実践状況を確認している。月齢に差があることや配慮が必要な子どもがいるため保育士間で連携を取りながら、一人ひとりの発達状況に応じた関わりや援助を行っている。</p>
			② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 208 保育の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が組織で定められている。 ■ 209 保育の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。 ■ 210 検証・見直しにあたり、指導計画の内容が必要に応じて反映されている。 ■ 211 検証・見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。 	<p>・保育の標準的な実施方法についての見直しの仕組みがあり定期的に行われている。保護者、保育士から表出された保育に関する意見等を集約し、保育の標準的な実施方法に関して検証し、園長会、課長補佐会、各種委員会で検討し見直しを図っている。見直し変更された内容については実施してから再評価をし、園長会でも更に検討を加えている。「公立保育園保健マニュアル」は2年毎に見直しを行っている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅲ	2	(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	<p>① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。</p> <p>② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。</p>	<p>a</p> <p>a</p>	<p>■ 212 指導計画策定の責任者を設置している。</p> <p>■ 213 アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。</p> <p>■ 214 さまざまな職種の関係職員、必要に応じて保育所以外の関係者が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。</p> <p>■ 215 全体的な計画にもとづき、指導計画が策定されている。</p> <p>■ 216 子どもと保護者等の具体的なニーズ等が、個別の指導計画等に明示されている。</p> <p>■ 217 計画の策定にあたり、さまざまな職種の関係職員、必要に応じて保育所以外の関係者が参加しての合議、保護者の意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。</p> <p>■ 218 指導計画にもとづく保育実践について、振り返りや評価を行う仕組みが構築され、機能している。</p> <p>■ 219 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な保育の提供が行われている。</p> <p>■ 220 指導計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、保護者の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。</p> <p>■ 221 見直しによって変更した指導計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。</p> <p>■ 222 指導計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。</p> <p>■ 223 指導計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、子ども・保護者のニーズ等に対する保育・支援が十分ではない状況等、保育の質の向上に関わる課題等が明確にされている。</p> <p>■ 224 評価した結果を次の指導計画の作成に生かしている。</p>	<p>・指導計画策定の責任者は園長で、「家庭の調べ」や個別懇談会で子どもや保護者のニーズを把握し各領域からアセスメントを行い指導計画を作成している。必要に応じて調理員、園医、保健師、栄養士、発達相談員、保健所・保健センター、小学校、子育て支援課母子児童担当等と連携を図りアセスメントや相談を行っている。入園後には個別懇談会やクラス懇談会で面談の機会があり、継続的かつ適切にアセスメントを行えるようになっている。地域支援会議では、多職種の専門職が集まり、ケース検討会議を行い、未満児や配慮を必要とする子どもの状況に合わせた保育が実践できるよう話し合いをしている。支援困難なケースについては職員会で検討し、地域支援会議につなげ専門職が意見を出し合い、子どもの状況に合わせた保育が提供できるようにしている。また、子ども相談室に相談したり、にこにこ園訪問等に繋げ、連携しながら適切な支援に当たっている。</p> <p>・年間の指導計画については日常の子どもの様子や個別懇談会等で表出された保護者の意向・希望等をまとめて、年度末の職員会議で次年度の計画が策定されている。年間指導計画の見直しは4半期ごとに担任が評価し、入園、進級当初や就学前等で保護者懇談会を開催し、個別計画に反映できるようにしている。月案は学年担当職員が月末に評価し、また、週日案は担任が評価し、保育の個別計画は個別懇談会で保護者の意向も確認し見直しをするなど、手順が明確で職員に周知されている。また、子どもや保護者の状況に変化があった場合には随時カンファレンスを行っている。指導計画の評価、見直しについては園長、主任が確認し、PDCAサイクルに沿って作成するよう職員に指導している。新型コロナウイルス感染拡大防止等の感染症対策として、緊急に指導計画を変更する場合の手順、仕組みも整備されている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅲ	2	(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 225 子ども達の発達状況や生活状況等を、保育所が定めた統一した様式によって把握し記録している。 ■ 226 個別の指導計画等にもとづく保育が実施されていることを記録により確認することができる。 ■ 227 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。 ■ 228 保育所における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。 ■ 229 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等の取組がなされている。 	<p>・公立保育園として、家庭のしらべ、身体発育及び健康診断の記録、発達の状況等、子どもの発達状況及び生活状況等を把握するために統一した様式を整備し、事前提出書類や個別面談等で把握された内容を記録している。個別保育計画、月案、週日案に基づく保育が実施されていることが、各種記録より確認することができた。記録は求められている内容に沿って丁寧に書き込まれ、園長、主任によるコメントも加わり保育の実施状況が適切に記録されていた。園では、定期的に職員会議が開催されており、情報発信の流れが明確で、確実に情報が届く仕組みが機能している。</p>
			② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ■ 230 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。 ■ 231 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。 ■ 232 記録管理の責任者が設置されている。 ■ 233 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。 ■ 234 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。 ■ 235 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。 	<p>・個人情報の保護に関する法律や児童福祉法の保育士の秘密保持義務に基づき、保育園として利用する子ども等の個人情報を適切に取り扱うとともに、保護者の苦情などに対し、その解決を図るよう努めている。記録管理の責任者は園長で、「ファイル基準表」「情報開示マニュアル」により、記録の保管、保存、廃棄、情報提供に関する規定を定め、業務を遂行している。市としての文書管理システムがあり、個人情報の不適切な利用や記録管理については「教育・保育の手引き」や「個人情報保護マニュアル」を基にした研修を新年度職員会議時に全職員で研修を行い、個人情報保護規定等を遵守している。また、保護者には入園時や進級時等に、個人情報の取扱いについて説明し、写真の掲示やホームページ等への掲載などについて承諾書により同意を得ている。個人情報にかかわりのある書類などは鍵のかかる所に保管し厳重に管理している。</p>